



南側から見下ろしたイメージ

新庁舎建設が始まります

— 新庁舎の位置は「野駄第21地割170番地」 —

昨年11月25日に開かれた市議会臨時会で、市役所の位置を定める条例の一部改正が可決され、新庁舎の位置を「八幡平市野駄第21地割170番地」とすることになりました。26年秋の完成を目指して、来月から建設用地の造成工事を行い、来年度から庁舎と多目的ホールの建設工事を行います。詳しくは、市役所庁舎建設対策室（☎・内線1272）まで。

実施設計が終わる

庁舎建設については、平成20年に庁舎建設に係る基本構想、翌21年は基本計画、配置計画を策定。22年に基本設計をまとめ、広報はちまんたい22年12月2日号（No.117）と23年1月6日号（No.119）で設計方針や内容をお知らせしています。基本設計を受けて、資材や製品など詳しいことを確定する実施設計が昨年9月に完了しました。

具体的な工事開始へ

実施設計とともに、庁舎建設に係る事業認可などの各種手続きも完了したことから、昨年11月25日の市議会臨時会で、庁舎の位置を現在の位置から「八幡平市野駄第21地割170番地」に改正する条例案が提出されました。同条例案は地方自治法で、出席議員の3分の2以上の同意が必要と定められており、記名投票での採決の結果、19対5の賛成多数で可決されました。今後は、26年秋の完成に向けて具体的な工事が始まり、来月から造成工事、ことしの秋からは庁舎の建築工事に入ります。

庁舎の機能

利用しやすい環境に優しい庁舎を

庁舎は周辺の景観に配慮し、3階建てとし、別棟で機械室と車庫を配置します。
1階は、各種証明書発行などの窓口や相談部門を配置し、相談室の充実も図ります。窓口前のロビーを広くし、吹抜けや外観のガラス張りなどで明るく開放的な空間とします。



1階窓口前のロビー（イメージ）

多目的ホール 結のひろばを併設

会議や講演会、検診などを行う多目的ホールを庁舎に併設します。
結のひろばは、庁舎と多目的ホールをつなぎ、通勤・通学などの駅利用の待合機能のほか、庁舎やホールを利用するときの待ち合いや休憩にも利用できます。
また、壁面利用やパネル設置などによる展示コーナーなど、利用の自由度が高い空間として活用します。



「結のひろば」から正面玄関を臨むイメージ

地中熱を利用した 冷暖房システム導入

従来の重油・石油のボイラーではなく、再生可能エネルギーである地中熱を利用したシステムとします。年間を通して13〜15度ある地中熱を熱源として利用し、エネルギー効率を高め、少ない電力で冷暖房を行います。

庁舎建設事業費

庁舎建設事業費は、建築工事費のほか、調査・設計費、用地取得費、造成・外構などの工事費を合計し、30億8000万円ほどを見込んでいます。合併特例債や補助金のほか、庁舎整備基金を有効的に使い、市の財政負担の軽減を図りながら事業を進めます。

北森駅の移設

JR花輪線各駅の環境整備は、市交通政策の重要な課題であり、引き続き北森駅の移設についてJR東日本と協議を重ねています。現在は基本調査設計を行い、ホームや自由通路の配置や規模などを協議しています。今後も協議の状況に応じて、移設に係る内容などをお伝えしていきます。



正面から見下ろしたイメージ